

# 地域福祉とアソシエーション

## —神奈川県平塚市における「町内福祉村」の取り組み—

東海大学 高木俊之

### 1 目的

ボランティア・アソシエーションを研究した越智昇は、都市型社会においてはコミュニティの成熟した姿が「福祉コミュニティ」ではないかとした（越智, 1991:284）。そして、調査によると連合町内会長が地域社協の会長を兼ねている地域に感心したケースがいくつもあり、それは日本的な、なるべくしてなった構成である（越智, 1991:287）と述べている。この分析視角は社会学の立場から地域福祉を研究する場合に今日も有効であると考えられる。そこで本研究は、平塚市の「福祉村」を事例に本来、福祉機能を担う集団はアソシエーションであると考えられるが、現実の地域社会においては町内会・自治会、地区社協、民生委員児童委員協議会（民児協）といった地域団体・集団と連携し、場合によっては重層関係を持っていることを論じる。

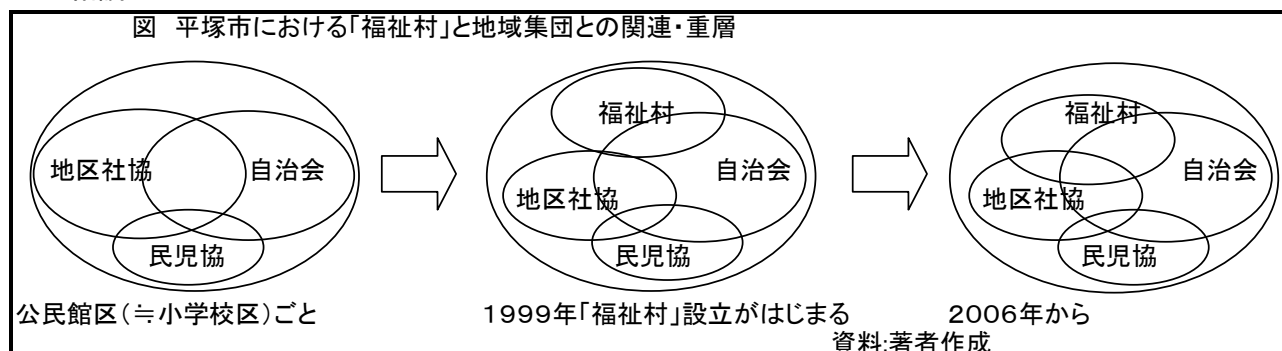
### 2 方法

2017年3月2日に行った平塚市福祉部福祉総務課地域福祉担当者へのインタビューおよび現地調査に基づき、収集した関連資料によって裏付ける。

### 3 結果

神奈川県平塚市の「町内福祉村」は1999年から行われている取り組みである。その活動は①市内公民館区ごとに常設の拠点を設置して、住民のコーディネーターが配置され、地域住民の身近な生活支援活動をボランティアに依頼している。拠点の大きな特徴は元市庁舎、民間、自治会館を使用しており、公民館に専用スペースを設けているのは2ヶ所に過ぎないことである。②行政や他機関への橋渡し。③拠点でふれあい交流活動を行っている。現在市内25地区のうち17地区で設立された。こうした取り組みは、他の市町村では、市区町村社会福祉協議会に設けられる地区社協のサロン活動や町内会・自治会の福祉部が行っていることが多い。また平塚市の公民館区は、ほぼ小学校区と重なっているために、小中学校生徒と交流する活動も行いやすい。

### 4 結論



図に見られるように、新たにアソシエーションとして設立された福祉村は、設立の際は自治会や地区社協、民児協に呼びかけ、構成メンバーとして自治会長や民生委員経験者と重なりながら新たなメンバーも増やしている。「折紙」「ゲーム」といったサロン活動は社協と住み分けて行い、ごみ出しや買い物といった介護保険では対応できない生活支援活動を行っている。このようにアソシエーションでありながら、地域集団と重層性を持つことを理論的に検討したい。

### 文献

越智昇,1991,「新しい共同社会としての福祉コミュニティ」東京都社会福祉協議会「福祉コミュニティ構想」研究委員会編『福祉コミュニティを拓く——大都市における福祉コミュニティの現実と構想』東京都社会福祉協議会:275-295.